

## リーオート ADR (LI)

【セクター】 電気自動車 (EV)

【市場】 NASDAQ

## 【企業概要】

中国の新興EVメーカー。長距離EVの商業化に成功したパイオニアとして、プレミアム・スマート電動SUVを設計・製造・販売しています。2019年11月に量産を開始しました。フラッグシップ・ファミリーSUVの「Li L9」に加え、プレミアム・ファミリーSUVの「Li L8」、「Li L7」を展開しています。2023年12月に高級車「MEGA」を、2024年前半は従来モデルよりやや手ごろな「Li L6」を発表する予定。中高価格帯の電動SUVで足場を固めた後、今後はターゲット市場を広げて行く予定です。

【業績】 (単位：売上高、純利益は百万人民元、EPS、1株配当、BPSは人民元、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース)

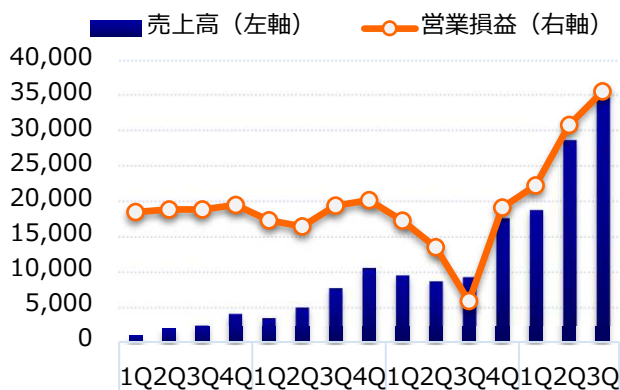
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
21.12期	27,010	780	0.41	0.00	21.3	-0.9	66.4
22.12期	45,287	21	0.02	0.00	23.0	-4.7	52.2
23.12期 (予)	120,076	8,638	6.91	0.00	42.5	15.2	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

(出所) BloombergのデータよりSBI証券作成

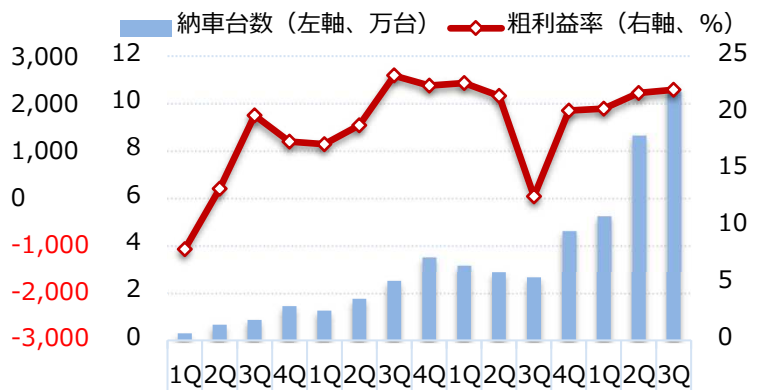
## 【主要指標】

売上高と営業損益の推移 (四半期ベース、百万円)



(出所) 会社資料よりSBI証券作成

納車台数と粗利益率の推移 (四半期ベース)



(出所) 会社資料よりSBI証券作成

## 【会社の見方】

新興EVメーカー3社 (ニオ、リーオート、シャオペン) のうち、同社はいち早く23.12期にも営業利益と純利益ベースで黒字化を達成すると予想されています。設立当初から家族層のモビリティ・ニーズに応える戦略を掲げ、15万-50万元 (やや中高価格帯) のSUVセグメントに特化したことで、テスラなど他の主要EV車種との直接競争を避けながら販売を拡大してきたからです。EVの航続距離を伸ばすために補助としてガソリンで発電できる機能「レンジエクステンダー」を採用し、消費者の充電不安を解消したことも、同社の車が人気を得ている理由の一つです。販売拡大に伴う規模の経済性に加え、直販モデルの採用や業務の効率化も、他社よりも優れた粗利益率 (20%強、同社の中長期的目標でもある) の達成に貢献しています。

## 【見通し・注目点】

3Q業績は市場予想を上回りました。納車台数が10.5万台に拡大し、粗利益率は22%に改善。20万元以上の新エネルギー車での市場シェアは2Qの13.7%から15.4%に上昇しました。4Qの納車台数ガイダンスは12.5万-12.8万台で市場予想を上回りました。10月も販売好調が続き、月間ベースで初めて4万台を超えました。同社の車と製品特性に近いファウエイのSUV「AITO M7」が9月に販売開始し、競争懸念を引き起しましたが、今のところそれによる影響は限定的のようです。

## 本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

## 手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。